

第五十二回 観阿弥祭式次第

日時 令和三年十一月七日（日）
午前十時始
場所 観阿弥ふるさと公園・能舞台

一、開会の辞
一、来賓挨拶
一、献茶・献花
一、能楽奉納

名張茶華道会

10:10

狂言
しびり
太郎冠者 柳島 寧心
主人 岩寄 幸那

名張子ども狂言の会
（大蔵流）

10:30

連吟 京童
岩寄 杏那 東本 莉穂 米本奈津希
高橋 莉愛 大塚 陽愛 竹島 舞桜
柳島 寧心 大塚 蒼真 名張子ども狂言の会
岩寄 幸那 高橋 佑誠 （大蔵流）
太鼓・笛合奏
早笛 舞働
笛 辻内 紗月
太鼓 野木 彩萌
太鼓 財津 奈央
名張こども能楽囃子教室

連吟

西行桜

井上 宏
辻井 政教 桔謡会
吉岡 眞也

連吟

猩々

門田 進
小嶋 幸信

百中 茂雄
山添 英明
立垣 慎治 邦謡会
芦木 忠雄

10:45

仕舞 龍
紅葉狩
田キリ

大森 操
荊原 広樹

山添 英明
立垣 慎治 名張幽風会
尾本 頼彦
百中 茂雄

主催 名張市観阿弥顕彰会

【お知らせ】

本日は、新型コロナウイルス感染症予防対策で、三密を避けるため、狭い楽屋での着替えを中止し、こども能楽囃子や仕舞の地謡は洋服のままで行ないますので、ご理解をお願いいたします。

観阿弥祭 奉納番組 解説

しびり

堺に遣いに行くように命じられた太郎冠者ですが、行きたくないので「持病の痺（しび）れが起こって歩けない」と仮病を使って断ります。仮病を見抜いた主人が「せっかく伯父から振る舞いに呼ばれたのに」と嘘をつく、太郎冠者は痺れによくよく言い聞かせて「治った」と立ち上がりますが…。

京童（きようわらんべ）

狂言の中の舞を狂言小舞と呼びます。ちょっとおませな、子どもたちの謡を楽しんでください。

早笛・舞働（はやふえ・まいばたらき）

早笛（はやふえ）は鬼とか幽霊が橋掛かりを通って登場する時の力強く・リズムカルな囃子です。舞働（まいばたらき）は舞台に登場した鬼とか幽霊が舞台上を一周するときに演奏される囃子です。今回は早笛につづいて、舞働を太鼓と笛の合奏で演奏します。

西行桜（さいぎようざくら） 世阿弥作

京都、西行の庵には、春になると美しい桜が咲き、多くの花見客が訪れます。西行は煩わしいので、花見を禁止しますが、訪れる人を追い返すわけにはいかず、招き入れます。

そして「美しいゆえに人を引き付けるのが桜の罪だ」と詠います。

木陰でやすらう西行の夢に、老桜の精が現れ「桜はただ咲くだけで罪などない」と言い「煩わしいと思うのは人の心だ」と、西行を諭し、舞を舞います。

猩々（しょうじょう）

揚子江の傍らに、親孝行者の高風（こうふう）という男が住んでいた。毎日高風の店に酒を買いに来る客の中に、いくら飲んでも顔色が変わらない猩々という者がいた。共に酒を酌み交わし、舞を舞い踊り、やがて猩々は高風の徳を褒め、泉のように尽きる事のない酒壺を与えて帰ってゆく。

龍田（たつた）

旅の僧が、奈良の紅葉で有名な龍田川へとやって来ます。川を渡って龍田明神へ参ろうとすると女が現れ、川を渡らないよう忠告します。出会った女は、龍田姫の化身で、龍田の美しいさや紅葉の美しさをめで、舞い踊ります。

紅葉狩（もみじがり） 観世小次郎信光作

平維茂（たいらのこれもち）の鬼退治。

物語が進むにつれて状況が明らかにになるという筋立て。意外性に富んだスペクトルな能の一つ。

紅葉の美しい山中で、高貴な女が侍女を連れて酒宴を開いていました。鹿狩りの途中であった維茂は、酒宴に誘われ酔いつぶれて眠ってしまっています。夢の中で、武内の神より女が戸隠の鬼であることを告げられ、八幡大菩薩の神剣を授けられます。

夢から目覚めた維茂に、鬼が襲いかかってきます。維茂は、神剣をふるい激しい戦いの末に鬼女を退治します。